


岐阜キリシタン小史(9)—美濃(尾張)キリシタン年表 黎明期—

※この年表は森徳一郎氏著『尾濃切支丹年表』(1935)を基に作成した。右列の日本の主な出来事はこの「小史」の執筆者によるもの。

西暦	和暦	地域区分	キリシタンに関わること	日本の主な出来事
1549	天文18			●フランシスコ・ザビエルが初めて鹿児島に入る(8月15日)。
1551	天文20			●フランシスコ・ザビエルが初めて京都に入る。
1560	永禄3	美濃	美濃・大桑城主土岐頼芸(よりなり)の弟の僧が京都に上洛し、同行した小池備後守と山田庄左衛門の両名が受洗。その後教式書類を携えて美濃に帰国。	●桶狭間の戦い(6月12日)
1562	永禄5	伊賀 大和	伊賀国の澤城主・高山飛騨守(友照・高山右近の父)以下150名が受洗。高山飛騨守の洗礼名は「ジュスト」(ポルトガル語で正義の人、義の人の意)。城中に会堂を建立し、尾張・海部郡花正(現在のあま市花正)出身の下僕コンスタンチノを神に仕えさせる。(注;澤城の所在地は現在の行政区分では奈良県宇陀市榛原地区。澤城は高山右近の生誕地としても知られる。)大和国の十市城城主石橋義忠は以前は尾張の国守であったが、破れて大和に遁れ高山飛騨守よりキリシタンの教えを聞き、受洗。(その後高山氏が摂津高槻に転封したため、石橋氏は招かれて致仕。)	●織田信長と徳川家康の清洲同盟が成る ●大村純忠が肥前国にキリスト教会堂を建立 
1564	永禄7	美濃 尾張	修道士アルメイダが澤城教会堂のコンスタンチノを遇する。その後、高山飛騨守の命により美濃に赴き、当地の有力者2名を改宗させる。河内八尾の城主池田丹後守が多数の家臣とともに受洗。また、宣教師ガスパル・ヴィレラの手紙によれば、尾張でも受洗を望む者が多くいたが、戦乱時のため行くことができなかったとのこと。	●川中島の合戦 ●竹中半兵衛が稲葉山を乗っ取る
1565	永禄8	京都	京都より宣教師が追放される。	●宣教師追放令(正親町天皇による) ●永禄の変(三好三人衆らが将軍足利義輝を襲撃し、殺害)
		尾張	松永久秀の重臣・結城忠正が妻の里のある尾張に帰る折に布教をしたいと申し出る。	
		美濃	修道士アルメイダが美濃に布教しようとするも船に乗り遅れ、果たすことができなかった。	
1566	永禄9	美濃	美濃斎藤氏の親戚の武士が堺にて受洗し、宣教師フロイスに美濃への布教を勧める。	●松平家康が三河を平定
		尾張	コンスタンチノ、このころ尾張・花正に帰り、布教を始める?	
1567	永禄10	美濃	美濃の仏教僧侶が堺にて受洗する(洗礼名レアン)。その者が美濃に帰るにあたり、フロイスはキリシタン武士への書状を託す。	●松平家康、徳川姓名乗る ●織田信長、岐阜城入城 ●松永久秀が奈良・東大寺、興福寺を焼討